

国際機関と労働政策

『日本労働研究雑誌』編集委員会

労働政策は主として国家単位で形成され展開されてきた。しかし、経済のグローバル化が進展し、国境を越えた企業活動が日常的に展開されるなかで、国家を越えたレベルで労働政策を形成し展開する必要性も高まっている。この特集では、ILO、EU、OECD等の国際機関が、国際的な労働政策や行動指針の形成と展開にいかにかかわり、どのような役割を担っているかを紹介する。

林論文は、国際機関として長い歴史をもつILO（国際労働機関）の歴史的展開と今日の取組みを紹介している。ここでは、①産業革命後の賃金労働者の保護のために国際的な労働基準を定めることの必要性から1919年にILOが創設されたこと、②戦中期に重要な条約が相次いで整備されたこと、③戦後の新興国家の誕生のなかでILOが技術協力事業等を展開し、今日では国際開発機関としての役割を拡大していることなど、その歴史的な流れを概観することを通して、ILOの基軸と特徴が明らかにされている。さらにILOでは、条約を批准していない国への対策として、(a) 団結権保障については結社の自由委員会を設ける、(b) 結社の自由・団体交渉権、強制労働の禁止、差別の排除、児童労働の撤廃という中核的分野については8本の条約を定めるなどして、未批准の国に対しても監視を行い、条約遵守を求める取組みが進められていることが示されている。

濱口論文は、EU（欧州連合）の歴史と体制を概観した上で、①労働者代表への情報提供と協議、②最長労働時間、休息時間等の保障、③非典型労働者の均等待遇、④性別、人種、障害、年齢、性的志向等に基づく差別の禁止等を定めたEU指令を中心とするEU労働法の展開を要説している。ここで特徴的なのは、EUレベルの労使団体が締結した労働協約が理事会の決定を経てEU法として施行されるという労使立法システムにある。もっとも、2000年以降差別禁止法制が労使立法システムから外され、労使以外のNGO等も含めた一般協議が行われるケースが増加するなど、労使立法システムは現在動揺のなかにある。また、指令による各国法制の調和・統一化という従来の手法とは異なり、雇用政策の大きな方向性（雇用戦略）につい

て各国がその進捗具合を報告しピア・レビューを行うという新たな仕組み（グローバルな政策調整）が展開されていることも紹介されている。

三谷論文は、OECD（経済協力開発機構）について、その沿革、組織等を概観した上で、政策形成の手法として、ILOのように条約を締結し強制力をもって政策を実行させる「ハード・パワー」をもたず、各国の事象についてピア・レビューを行い実証分析に基づいて勧告を行う「ソフト・パワー」しかもたないことを明らかにする。そしてこの点は、経済社会が複雑になり政治的な選択が難しくなるほど、先を見据え、課題解決に向けて「考える」場となりうる点で、OECDの長所となるという重要な指摘がなされている。また、OECDの『雇用見通し』や『雇用戦略』からさまざまな政策提言や教訓が得られることが具体的な知見を交えながら紹介されている。また、長期不況下で失業対策等の重要性が増している日本では、1980年代以降OECDの主要な政策軸とされてきたアクティベーション政策から学ぶべき点が多いとされている。

また近年、以上のような政策的な取組みと並んで、OECD、国連、GRI、ISOといったさまざまな機関が企業の社会的責任（CSR）に関する行動指針を策定し、企業行動を評価・誘導する動きが活発化している。青木論文は、この国際機関等による企業行動指針の形成と展開について概説したものである。ここでは、CSRの鍵となる「持続可能な発展」という概念が形成されていった経緯、CSRに関する企業行動指針の種類、なかでも代表的なものとしてGRI、OECD、国連による行動指針が重要な機能を果たしていることが明らかにされている。これらの国際機関のCSR指針を参考にしつつ、企業風土や経営理念を反映させながら、独自のCSR指針を策定し実践している日本企業の例も紹介されている。

以上の4論文を鳥瞰すると、国際条約に基づく強制という従来型の手法には、①国家主権との衝突という壁（未批准国にいかに対応するか）と、②画一的な国際基準と各国の多様で複雑な実態との不適合という共通の課題があるこ

とがうかがえる。これらの課題を克服するために、①条約を批准しない国への監視や勧告、②各国・各企業の多様性・自発性を認めつつピア・レビューや行動指針を介して目的達成へ誘導していく取組み等が展開されている。日本は、主要な条約（の一部）をなお批准していない国として、ま

た、ピア・レビュー等の政策プロセスにより積極的に参加すべき国として、二重の課題を背負っている。

責任編集 水町勇一郎・神林龍
(解題執筆 水町勇一郎)